



令和7年1月17日
枚方寝屋川消防組合

令和6年消防統計

本消防組合における、令和6年（1月から12月まで）の消防統計の速報値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

1 119番通報について（※交野市を含む）

枚方寝屋川消防組合・交野市消防指令センター全体の119番通報件数は7,685件で、前年（78,378件）より1,523件減少しました。

2 火災について

火災件数は160件（枚方市94件、寝屋川市66件）で、前年（165件）より5件減少しました。

この件数は、過去10年間で一番多かった平成30年の185件と比べると25件減少となります。

火災による死者は8人（枚方市4人、寝屋川市4人）で、前年（9人）より1人減少しています。

出火原因は「電気火災」が37件で第1位となり、「放火（疑い含む）」が25件で第2位でした。

3 救急について

救急出動件数は46,617件で、前年（45,715件）より902件増加し、救急搬送人員は41,373人で、前年（39,969人）より1,404人増加しました。

4 救助について

救助出動件数は334件で、前年（327件）より7件増加しています。

※ 詳細については別添のとおりです。



【問い合わせ先】
枚方寝屋川消防組合
情報指令課 TEL 072-852-9806
警防課 TEL 072-852-9917
救急課 TEL 072-852-9918
企画戦略課（広報） TEL 072-852-9906

119番通報の主な特徴

1 119番通報は指令センター全体で約1,500件減少

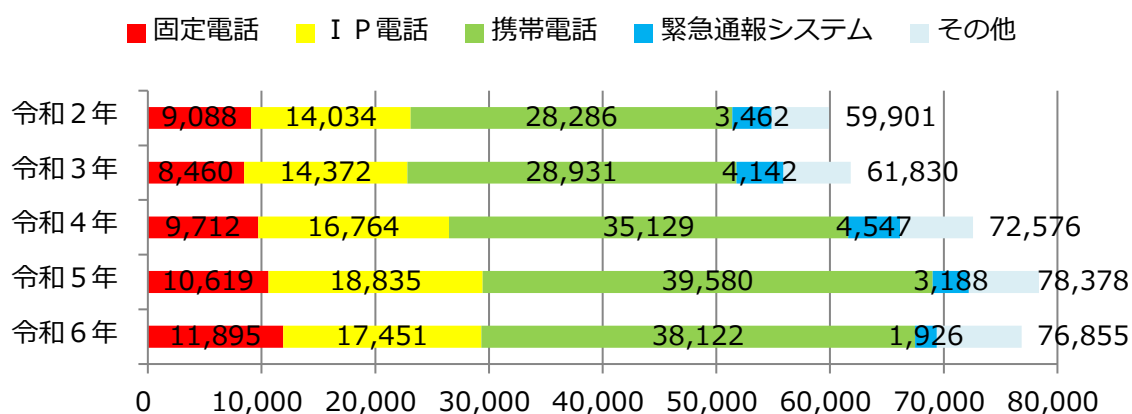
令和6年の枚方市・寝屋川市からの119番通報は問い合わせを含め70,698件で、前年(72,212件)より1,514件減少しました。

これは、枚方市・寝屋川市の市民の約11人に1人が119番通報をしたこととなります。

また、指令業務を共同運用している交野市からの通報は6,157件で、枚方寝屋川消防組合・交野市消防指令センター全体では76,855件(1日平均約211件)となり、前年(78,378件)より1,523件減少しました。

※平成27年7月から、枚方寝屋川消防組合と交野市消防本部において消防指令業務の共同運用を行っています。

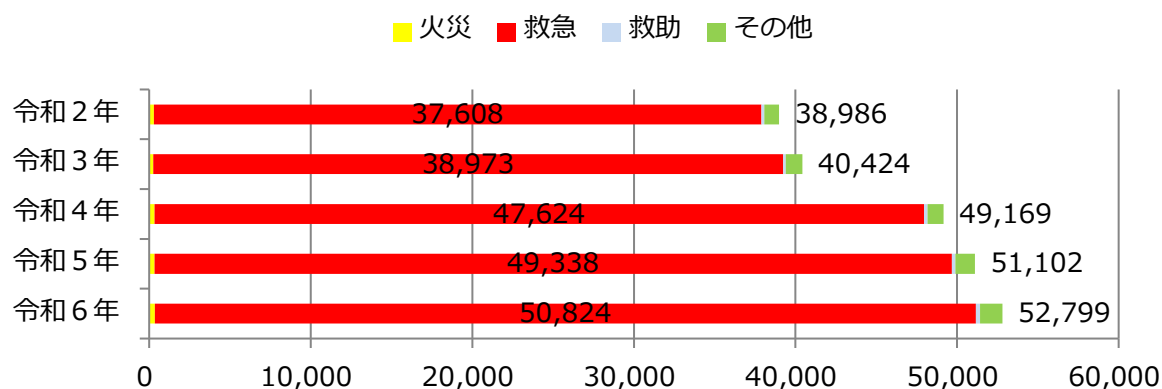
回線別の受信件数の構成比の5年ごとの推移



2 119番通報のうち6割以上が救急関係 ※交野市を含む

119番通報のうち、災害に関する通報は52,799件で、前年(51,102件)より1,697件増加しています。「救急関係」の通報も増加し、50,824件で通報全体の約66%、災害に関する通報の約96%を占めています。

119番通報(災害事案)の構成比の5年ごとの推移



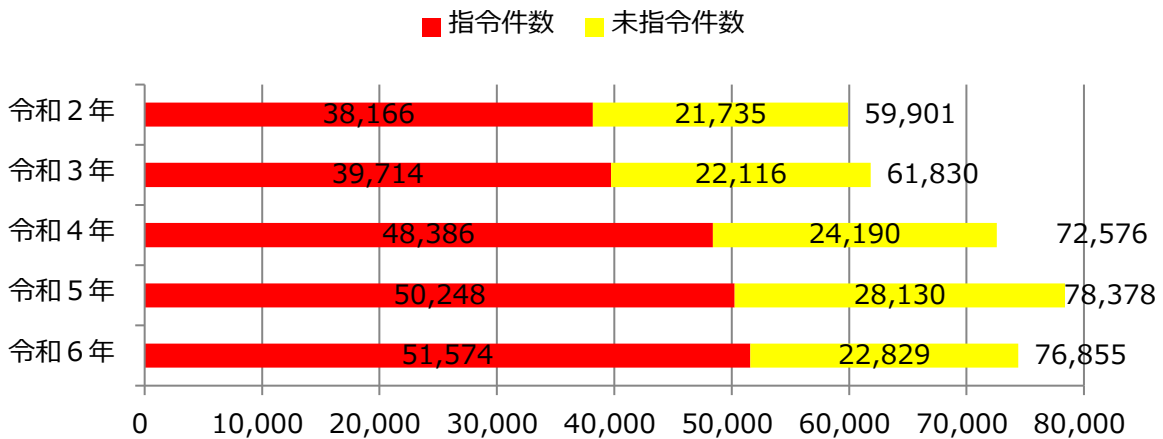
3 出動指令を出した事案は全体の約6割 ※交野市を含む

119番通報に対して実際に出動指令を出した事案は51,574件で、通報件数に対する割合は約67%で、前年(50,248件)より1,326件増加しています。

一方、119番通報に対して出動指令を出さなかった事案は22,829件で前年(28,130件)より5,301件減少しました。

そのうち、「各種問い合わせ」、「悪戯」、「間違い」などの緊急性のないものは約30%、「試験」、「他への転送等」は約1%でした。

出動指令件数と未指令件数の構成比の5年ごとの推移



4 救急車が到着するまでの間の応急手当を口頭で指導

救命率向上のために、救急車が到着するまでの間、通報者から傷病者の状態を聴取し、心肺蘇生法などを口頭で指導しています。

令和6年の指令センターからの口頭指導の件数は752件で、そのうち「心肺蘇生(胸骨圧迫、人工呼吸)」605件、「AED」98件、「その他(異物除去、止血、移動等)」が21件となっています。(重複あり。)これらの件数の中には、口頭指導するも指導が困難であったり、拒否された123件が含まれています。

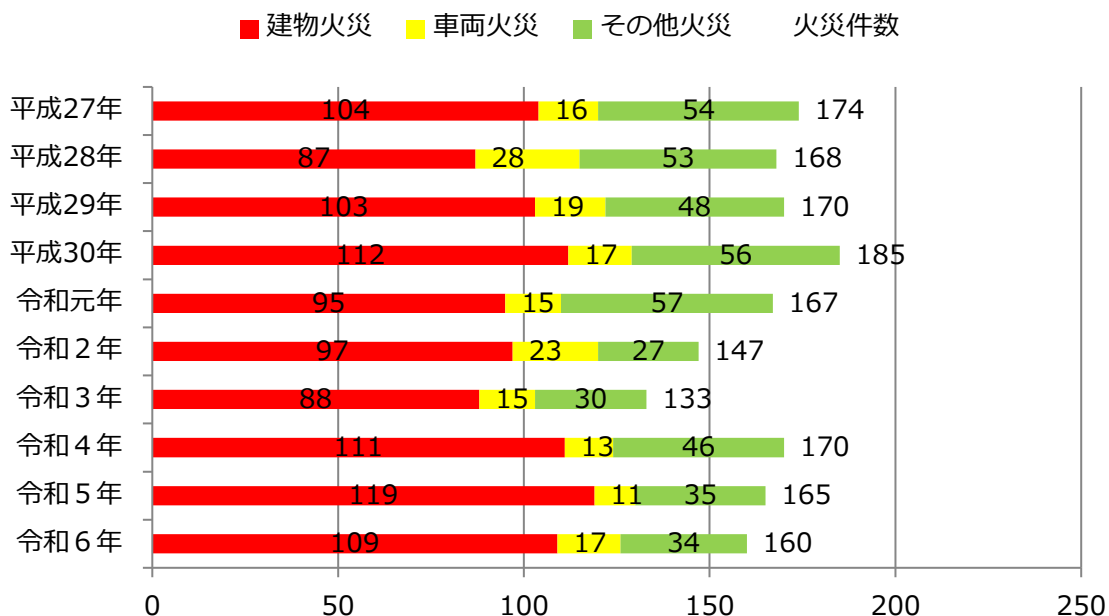
また、救急現場においてバイスタンダー(居合わせた方)による心肺蘇生等が大変重要になります。本消防組合では、救急活動に協力して下さった方に対して感謝の気持ちを込めて「**勇気こころのカード**」を配布しています。

火災の主な特徴

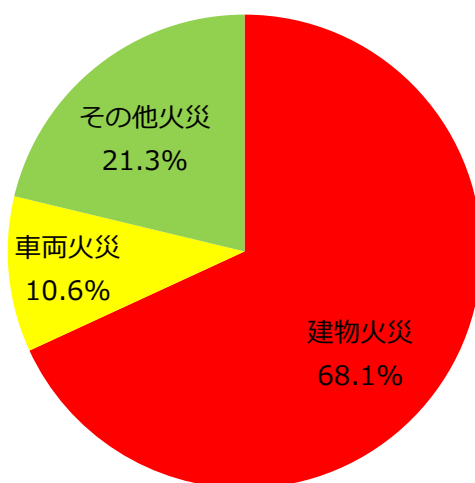
1 火災件数は165件で前年より5件減少

令和6年の火災件数は160件（枚方市94件、寝屋川市66件）で、前年（165件）より5件減少しており、過去10年間で8番目の件数となりました。

火災件数と火災種別の構成比の10年ごとの推移



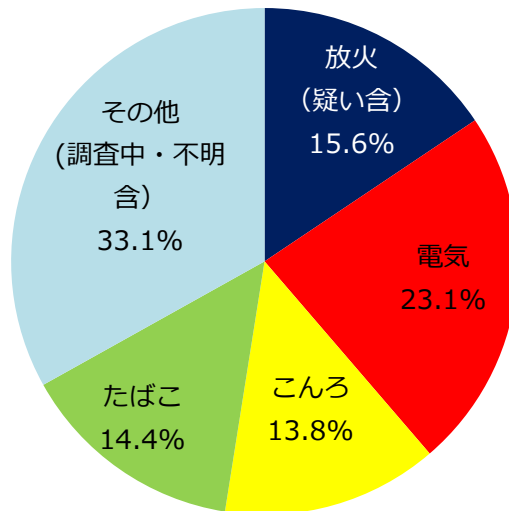
火災種別の構成比



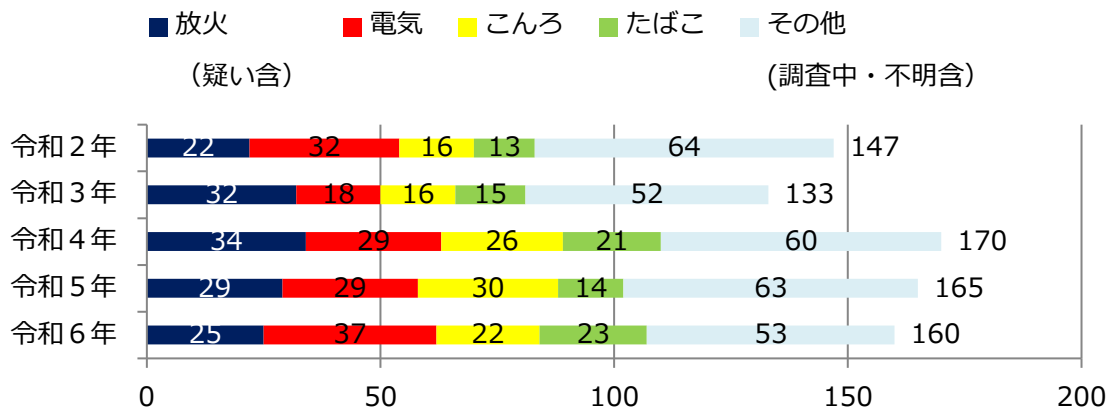
2 出火原因 1位「電気関係」、2位「放火(疑い含む)」

出火原因別に見ると、1位「電気関係」37件(23.1%)、2位「放火(疑い含む)」25件(15.6%)、3位「たばこ」22件(13.8%)の順となっています。

主な出火原因の構成比



主な出火原因の構成比の5年ごとの推移



3 火災による死者は8人、負傷者は43人

火災による死者は8人（枚方市4人、寝屋川市4人）で、前年（9人）より1人減少しました。

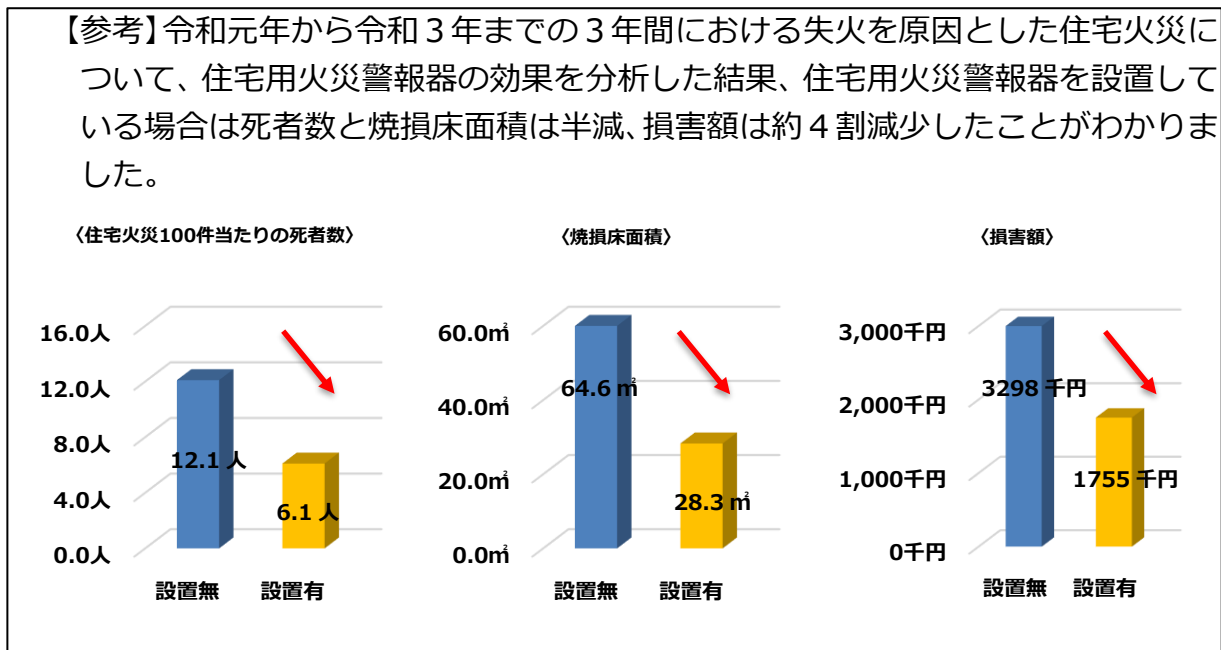
死者8人のうち住宅火災によるものが8人で、そのうち7人が65歳以上の高齢者でした。

負傷者は43人（枚方市26人、寝屋川市17人）で、前年（36人）より7人増加しています。

4 住宅用火災警報器について

住宅用火災警報器を設置することで火災発生時の死亡リスクや損失の拡大リスクが大幅に減少しています。

【参考】令和元年から令和3年までの3年間における失火を原因とした住宅火災について、住宅用火災警報器の効果を分析した結果、住宅用火災警報器を設置している場合は死者数と焼損床面積は半減、損害額は約4割減少したことがわかりました。



住宅火災から命をまもるために、住宅用火災警報器を設置しましょう。

また、いざという時に住宅用火災警報器が正常に作動するよう、定期的に作動確認を行いましょう。

救急の主な特徴

1 救急出動件数、救急搬送人員がともに過去最高件数

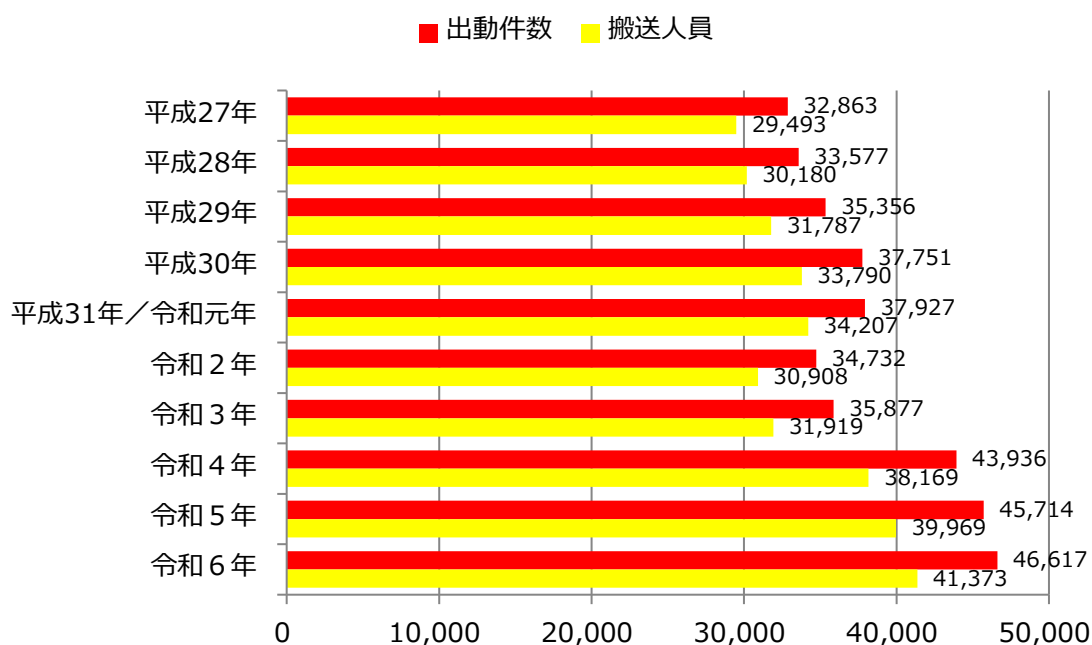
令和6年の救急出動件数は46,617件（枚方市27,523件、寝屋川市18,901件、その他193件）で、前年（45,715件）より902件（2.0%）増加し、**過去最多**となりました。

救急搬送人員は41,373人（枚方市24,346人、寝屋川市18,901人、その他121人）で、前年（39,969人）より1,404人（3.5%）増加し、**過去最多**となりました。

1日の平均出動件数は約128件で、救急隊1隊あたりの1日の出動件数は約7.1件となっています。

※その他とは、第二京阪道路、交野市等へ出動した件数です。

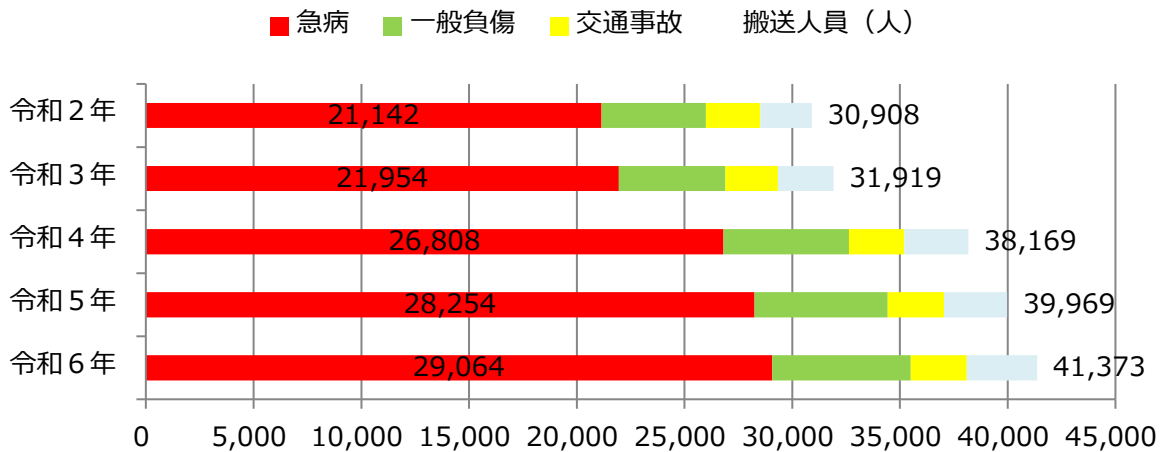
救急出動件数及び搬送人員の10年間の推移



2 事故種別救急搬送 1位「急病」、2位「一般負傷」、3位「交通事故」

事故種別ごとの救急搬送人員は、1位「急病」29,064人(70.2%)、2位「一般負傷」6,437人(15.6%)、3位「交通事故」2,594人(6.3%)の順となっています。

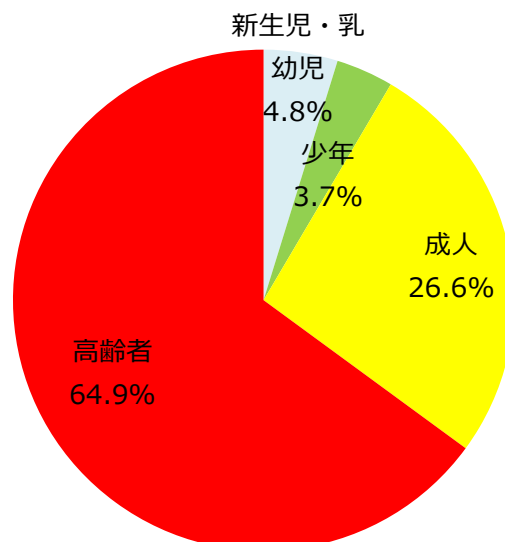
事故種別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移



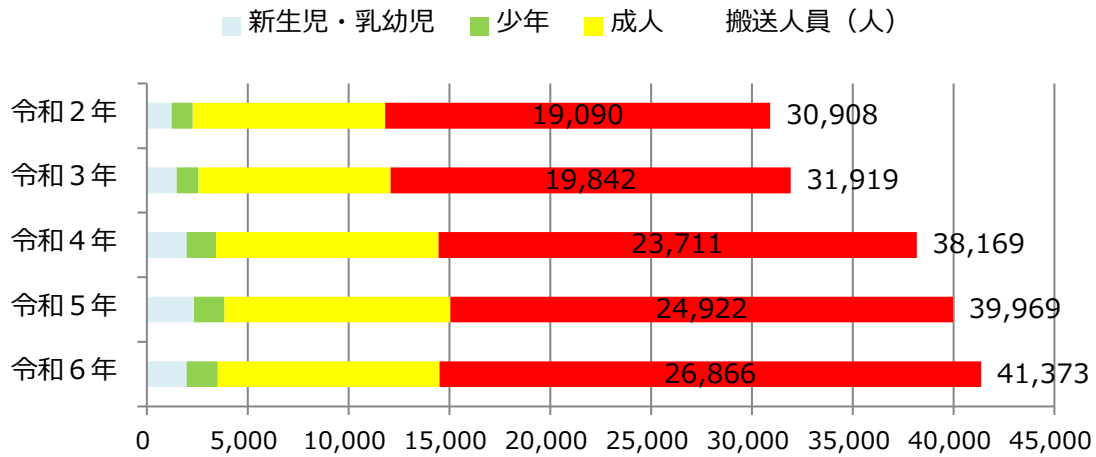
3 救急搬送人員の約6割が65歳以上の高齢者

年齢区別による搬送人員は、65歳以上の高齢者が26,866人で、全体の64.9%を占めています。

年齢区別の搬送人員の構成比



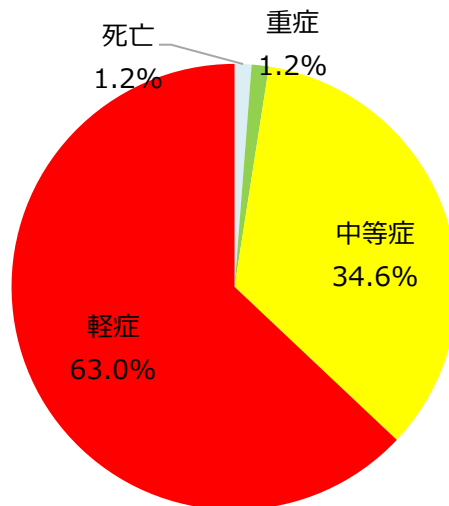
年齢区分別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移



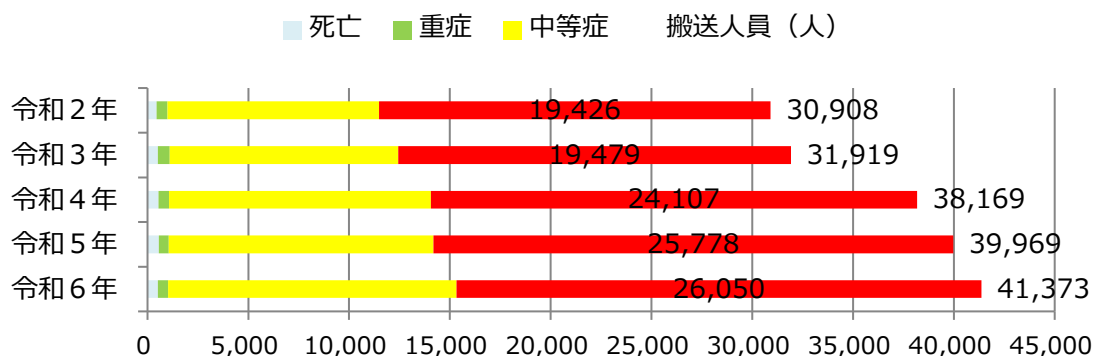
4 救急搬送人員の約6割が軽症者

症度別による搬送人員は、軽症者が26,050人で、全体の63%を占めています。

傷病程度別の搬送人員の構成比



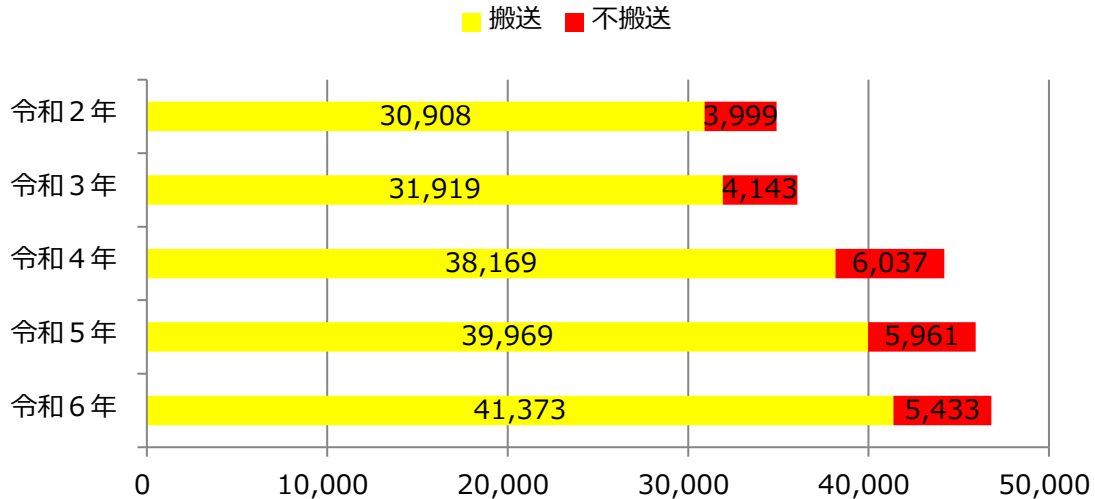
症度別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移



5 救急出動全体の約12%は不搬送、不搬送のうち約75%は搬送拒否等

不搬送には現場処置、死亡が確認できる状態の場合や医師搬送のための理由もありますが、救急車での搬送を辞退、拒否、傷病者無し、誤報、悪戯等が75.0%を占めています。

搬送数と不搬送数の構成比の5年ごとの推移



6 ドクターカー出動件数

平成29年4月から救命率の向上を図るために、医師が救急車に同乗し、救急現場にて医療行為を行うドクターカーを運用しています。(平日の9時～17時まで)

令和6年の出動件数は361件(枚方市207件、寝屋川市113件、その他41件)で、1日の平均出動件数は約1件となっています。

ドクターカーの出動項目別では、「急性脳卒中」133件(37%)、「心肺停止」113件(31%)、「急性の心疾患」17件(5%)、「呼吸・気道の障害」7件(2%)となっています。

※その他とは、第二京阪道路、交野市等へ出動した件数です。

救助の主な特徴

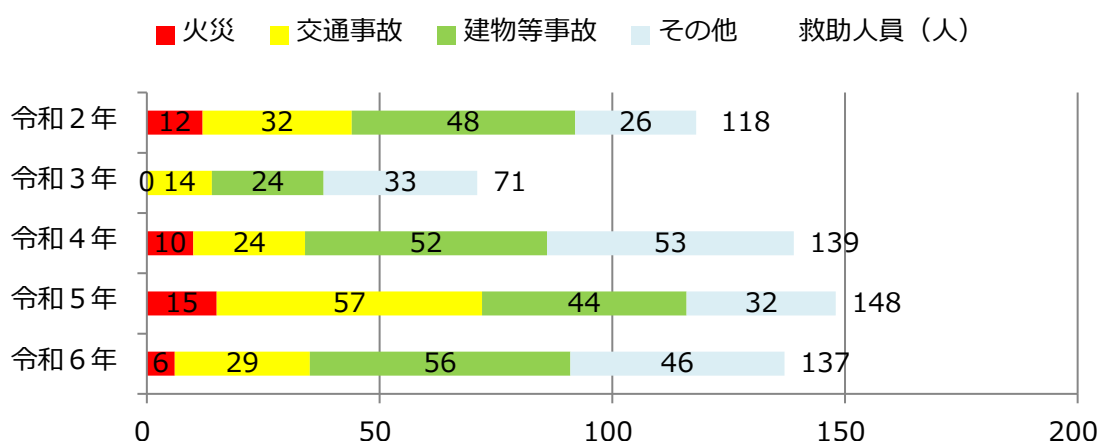
1 救助出動件数は7件増加（1日平均約0.9件の出動）

令和6年の救助出動件数は334件で、前年（327件）より7件増加しています。

2 救助人員は前年と比較して11人の減少

令和6年の救助人員は137人で、前年（148人）より11人減少しています。

事故種別の救助人員と構成比の5年ごとの推移



3 事故種別救助出動件数 1位「火災」、2位「建物等事故」、3位「交通事故」

事故種別ごとの件数は、1位「建物等事故」85件（24.6%）、2位「火災」82件（24.6%）3位「交通事故」47件（14.1%）、の順となっています。

事故種別の救助人員と構成比の5年ごとの推移

